

普段とは違う視点から見た23区、  
知ればもっと面白い!

# クマなくさんぽ

総集編



今まで散歩した、あんなところ、  
こんなところ…ご紹介します  
※ポイントの位置は施設の位置を示しています。

これまで「クマなくさんぽ」で訪れた施設は44か所。その一部を振り返りました。  
23区の魅力が詰め込まれた様々な施設  
ご近所、少し足を延ばして…お出かけになってみませんか。



## 1 千代田区

ちよだアートスクエア  
(旧アーツ千代田3331)

Vol.43(2021.1.1)  
※施設老朽化に伴う改修工事のため一時閉館中です。

## 2 中央区

本の森ちゅうおう

Vol.54(2023.10.1)

## 3 港区

港区立みなと科学館

Vol.48(2022.4.1)

## 4 新宿区

漱石山房記念館

Vol.35(2019.1.1)

## 5 文京区

肥後細川庭園 しょうせいかく 松聲閣

Vol.38(2019.10.1)

## 6 台東区

旧東京音楽学校奏楽堂

Vol.36(2019.4.1)

## 7 墨田区

すみだ北斎美術館

Vol.27(2017.1.1)

## 8 江東区

えこっくる江東

Vol.29(2017.7.1)

## 9 品川区

しながわ水族館

Vol.26(2016.10.1)

## 10 目黒区

目黒区総合庁舎

Vol.53(2023.7.1)

## 11 大田区

大田区立勝海舟記念館

Vol.39(2020.1.1)

## 12 世田谷区

等々力溪谷公園

Vol.41(2020.7.1)

※安全確保と樹林地を健全に維持するための作業を実施しているため、  
大部分を閉鎖しています。再開などの予定はHPをご確認ください。

## 15 杉並区

大田黒公園

Vol.44(2021.4.1)

## 16 豊島区

豊島区立トキワ荘  
マンガミュージアム

Vol.42(2020.10.1)

## 17 北区

北区防災センター

Vol.45(2021.7.1)

## 18 荒川区

あらかわ遊園

Vol.52(2023.4.1)

## 19 板橋区

熱帯環境植物館(ねったいかん)

Vol.46(2021.10.1)

## 20 練馬区

練馬区立牧野記念庭園

Vol.49(2022.7.1)

## 21 足立区

ギャラクシティ

Vol.57(2024.7.1)

## 22 葛飾区

葛飾柴又寅さん記念館

Vol.33(2018.7.1)

## 23 江戸川区

江戸川区スポーツランド

Vol.31(2018.1.1)

いろんなところを  
散歩したけど、  
みんな楽しかったな〜  
また行きたいな〜



これまで「クマなくさん  
ぽ」で紹介した記事は、以  
下の二次元コードで読ん  
でいただけます。  
イベント情報や料金などの掲載情報  
は掲載当時のものとなります。





## ▶▶ 東京五拾区縮図

「東京五拾区縮図」は、東京における行政区割りの始まりの姿を表した手書きの地図で、大変貴重な資料です。当協議会では50枚全て揃えて所蔵しています。

この地図が作成されたと推測される明治初期、東京府は市街地と郷村地の境界線である「朱引」を定め、この朱引内に属する町地(982町)を一番組から五十番組までの50区に分けました。この制度は、明治2(1869)年3月から翌年6月の間のみ施行されたものですが、現在の東京23区の区割りのはじまりがここにあるといえます。

本資料は、One23でたびたびご紹介してきました。今回は、過去の掲載記事から当時の戸数と人口に触れている箇所をピックアップし、地図とともに改めて紹介します。



『東京五拾区縮図』  
一番組～五十番組まで、  
番組ごとの地図になっています。



### 一番組 本町その他

Vol.6(2011.10.1)掲載

『一番組』に描かれた地域は、南に日本橋川、西に御堀、北側が龍閑川(神田堀)、東側が本町・本石町・本銀町の各々四丁目の一帯です。当時21町に1,984戸、10,561口(当時の人数を表す単位)の町民が暮らしていました。

この地域は、五街道の起点となる日本橋、金貨鑄造所の金座、多くの商店や問屋が軒を並べる本町通り・本石町通りがあり、大変な賑わいをみせていたようです。

### 十七番組 芝田町(五丁)その他

Vol.7(2012.1.1)掲載

『十七番組』に描かれた地域は、東は東海道の江戸前の海、南に芝大木戸・伊皿子坂・魚籃坂、西が古川四之橋付近、北は札ノ辻付近の一帯です。当時14町に960戸、3,702口の町民が暮らしていました。

五十区は人口約1万人を目安に区分したものとされますが、『十七番組』の人口は目安の半分以下で、区域は東海道から古川四之橋周辺までと広範囲であったにもかかわらず、50区中2番組目の少なさでした。



『十八番組』に描かれた地域は、『十七番組』から南に続く東海道一帯で、江戸前の海に面した地域です。南は品川宿に続き、北に芝大木戸があり、当時8町に1,283戸、5,044口の町民が暮らしていました。

この地域は、東海道の江戸の入口にあたり、江戸出入の人々の往来で賑わっていました。地図中央辺りに「泉岳寺」、その西側に大石良雄(内蔵助)が切腹したとされる「熊本藩中邸」が確認できます。



50区の後、東京の区は、明治4(1871)年から実施された大区小区制を経て、明治11(1878)年に現在の特別区の原形といえる15区が誕生しました。以降、昭和7(1932)年に35区、昭和22(1947)年3月に22区と変遷を経て、昭和22(1947)年8月に現在の形の23区となっています。当協議会では、これらの時代に作成された地図も所蔵、公開しておりますので、あわせてぜひご覧ください。

### コラム:『東京五拾区縮図』を巡る物語

「所蔵資料 蔵出し」では、センターが所蔵する貴重図書、古地図、資料などから、選りすぐりのものを紹介してきました。「東京五拾区縮図」は、全6回にかけて紹介し、中でも、「『東京五拾区縮図』でたどる赤穂浪士引き揚げの道」というテーマで全3回にわたり、吉良邸のあった本所松坂町(墨田区両国三丁目)から泉岳寺までの約12kmの道のりを、現在の史跡や地名で紹介しました。

吉良邸跡は現在の地図で見ると公園になっています。赤穂藩邸は聖路加看護大学敷地にあたり、そこから、築地本願寺、芝増上寺、落語の「芝浜」の舞台になった「雑魚場」を経て、泉岳寺まで辿ります。

約12kmの道のりを、赤穂浪士は約2時間で歩いたそうです。健脚ぶりに驚かされつつ、亡き主君に一刻も早く報告したい忠義心の表れなのかな?と思いを馳せました。

蔵出しの執筆当時、執筆者が「東京五拾区縮図」の複製と現在の地図を片手に、実際に道のりを辿ったそうです。「明治当初の地図では道の様子が変わっているだろう」と思われがちですが、思いのほか縮図どおりに歩けたそうです。何度か引き返したそうですが、地図上に残っている道や水路の向きは大幅に変わることなく、方角が大きく逸れることはなく歩けたそうです。縮図の精度の高さがうかがい知れます。

吉良邸討ち入りから300年以上経ちますが、今もなお、講談、歌舞伎などで愛されている忠臣蔵。古地図からでも当時の情景を思い浮かべることができますので、デジタルアーカイブで振り返ってみてはいかがでしょうか。

『東京五拾区縮図』の  
記事の二次元コード▶



### 【特別区自治デジタルアーカイブのご案内】

これらの地図は、デジタル公開しており、  
詳細を鮮明にご覧いただけます。

今回は、『東京五拾区縮図』を特集して紹介しましたが、これまで「所蔵資料 蔵出し」で紹介した記事は以下からご覧いただくことができます。



「所蔵資料 蔵出し」  
の二次元コード



これらの資料は、  
特別区自治情報・交流センターで  
実際に手にとって、  
ご覧いただけます。

### 特別区自治情報・交流センターとは?

23区(特別区)と地方自治の専門図書館として約12万4千冊の資料を所蔵しています。特別区や地方自治について知りたい、調べたいときなどにご利用ください。